満洲日報

舊暦九月五日(みづのと、み)
●新聞代價表 一枚三錢 一ヶ月金六十錢 半ヶ年金三圓四十錢 一ヶ年金六圓五十錢 滿洲各地への郵送は郵税不申受
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢 特別廣告仝
發行所 營口南本街 滿洲日報社 電話 編輯室一一 事務室二九
奉天大東門内滿洲日報社支局 全十間房滿洲日報社出張所 鐵嶺大神前滿洲日報社支局 公主嶺支那町滿洲日報社出張所 孟家屯驛前滿洲日報社支局 大連信濃町滿洲日報社支局 長春城内滿洲日報社出張所

車發着時刻表 線 (瓦房店、大石橋、遼陽、蘇家屯、公主嶺、長春、奉天、鐵嶺、開原、金州、南關嶺、大連、營口、牛家屯、苦水子、熊岳城、千金寨、撫順 ほか 時刻 [illegible])

満洲日報

米國最近の軍備

△日露戰爭の發頭人たる露帝が、厚顔にも二回まで平和會議の首唱者と爲り、日露戰爭の調停者たる米大統領が、今や極力軍備の擴張を主張する、寧ろ近代の一大異觀に非ずや。ローズヴェルト氏イリノイス州カイロに於ける演説に云ふ、屈辱ある平和は個人に取りても決して忍ぶ能はざる所也、況んや國家をやと、陸相タフト氏は其林外相歡迎會上に於て亦云ふ、今日日米兩國相戰ふべしといふが如きは一の罪惡なり無法なり兇暴なり、然れども戰爭によりてのみ決せらるべき問題か戰爭によりて決せんと今日の世の中に於て已むを得ざるもの無からずとせず、戰爭は地獄なり、然れども戰爭を正認せしむべき正當の理由ありとせば、何ぞ必ずしも戰爭を辭せんやと、凄き言ひ分と謂ふべし。而して桑港電報は傳へて云ふ、米國海軍省は次期議會に四萬馬力、十四吋砲十六門を搭載すべき二萬噸の一大戰闘艦建造案を提出する計畫なりと、伯林電亦云ふ、米國海軍省は更に快速なる巡洋艦五隻及び戰闘艦四隻を新造するの議あり大統領ローズヴェルト氏も亦此計畫に贊成せりと。傳ふる所、必ずしも信を必す可らずとせんも、最近米國に於ける軍備情形の一斑、以て察するに足らんか。

徐總督の去就如何

嚮に徐總督が北京廷の召電に遇ひ、北方視察を中止して、倉皇參朝の途に就けるや、頗る世人の耳目を驚かせるものあり、揣摩臆想、此に因りて紛々として起生し、遂に徐總督の轉任説と爲り、後任者下馬談と爲り、曰く徐總督内用せられて陸軍尚書たらん、曰く鐵良出て徐氏の後を襲がん、曰く新直隷總督楊士驤轉じて奉天に來らんと、而して最近の一報は、現奉天巡撫唐紹儀の材幹を稱し、頻りに總督昇任の説を爲す者あり、素と揣摩の臆想に出て、必ずしも根據あるの言に非ざるも、其徐總督更任の説は、人をして殆ど事實として受取らしめ、其更迭の早晩之れあるべきを思はしめたり。吾人は此傳説に對し、今尚半信半疑の中に在りと雖も、嚮に趙將軍一たび去りて徐總督新に任じ總督に就き、日清交渉問題亦日に進捗を見んとするに當り、大局に通ぜる徐氏其人を失ふが如きは、彼我の不利益頗る大なるべく、吾人は誠意を以て其留任を希望しつゝあるに、一説は一説より其轉任を確實ならしむるの傾向あり、吾人が遺憾や殊に甚しと爲す。然るに昨奉天支局の報道は、奉天官場の消息なりとて、徐總督の必ず豫定期日前後に歸任すべきを報じぬ、報にして果して信なる、深く日清兩國の爲めに之を慶せずんばあらず、記して後報を俟つ。

善隣時事

▲兩宮と憲政 聞く内廷に於ては憲政に關する書籍を購入せること甚だ多く袁尚書も亦外務部譯員に命じ東西各國の憲法條款を繙譯して兩宮の乙覽に供する由なり兩宮は暇時の節は各種憲政書を御覽遊ばさるべき由にて該書籍の送附なき時は張軍機に御諭あるやに承はる又た軍機大臣に向ひ現在各新政を舉辦し毫も其の成績の揚からざる旨を述べられ汝等心を國事につくし愼重參酌し應辦の要政あるに遇はゞ随時に奏聞して裁決施行し便ならしむ可しと御垂訓ありたり

▲外部と昨今の外交問題 英露兩國公使は英露協約及西藏附協稿を携へ去る五日外部に赴き宣告し、駐英代理清國陳公使は英國外務省が訂したる上海租界に於て煙館を禁止するの章程を譯して外部に逓り、又外務部は陳代理公使に對し威海衞を贖回すべしとのとを提議したるが仍ほ當に詳細磋議を爲し堅持勉めて其目的とするを期す云々、佛國公使は又外部に向ひ以後清國は再び船廠を設くる場合は仍ほ佛國技師を聘用すべきことを要求せり、露國は松花江岸烟金樓に於て阜頭を作ることを要素したり右に付東省大吏より如何處置すべきかを打電し來たれりと

▲袁鐵兩尚書の不和 袁世凱入京後は陸軍部尚書鐵良と胸襟を開き寛談を試み袁軍機は陸軍の事は憂ふるに足らず今後我は自から後援たる可しと鐵尚書に語り大に互に親善の模様なりしが過日朗潤園の會議公所に於て專電處を設け譯員二人の内一人は滿洲人なるが密に袁軍機の行動を鐵尚書に通告しつゝありたれば袁軍機は大に怒り目下不和の情態にありと云ふ

▲關税刷新の議 各省の海關道は多く開港市場に駐任し交渉事件繁雑にして且つ關税を整頓するの時に際せるに依り廉幹の官吏を派遣するの必要あるに依り政府は今回各省督撫に命じ今后は隨意に關道各員の能否を查看し去留を密奏して除弊に盡力し若し其の人地に宜からざれば奏調を行ひ以て税課を重すべきを命令せり

▲梁如浩任命の原因 梁如浩か此次蘇松太道に任命されたる理由を聞くに近來上海交渉繁雑にして夫の公堂案電車軌案辦理の如き均しく辣手敏腕の人を要するを以て袁軍機は特に津關道梁如浩を保荐して上海道に任命したるなりと又聞く梁蔡の調補は均しく袁軍機の保荐に係かると云ふ而して蔡紹基は後任としては奉京鐵路總辦周長齡を以てすべしと

營口に於ける清國金融機關 (二)

以上述ぶるか如く會館も公所も同郷團体なると同時に同業組合と云ふ組織であるが更に其大なるものに至りては政治的團体の性質をも含有して居る上海邊の廣東人や寧波人のそれに就て研究して見ると同郷組合は戸籍をも司れば懲戒處分のやうなこともやつて居る又同業組合に於ては商事裁判のやうなこともやつて居る法律が不完全で殊に商法などのない支那の事であるから誠に當然なる事業だと思はれる故に會館公所なるものゝ經濟的事業と云ふものは支那の國家社會に重大なる地位を占むるものと言はねばならぬ就中其勢力の大なるものに至りては政治上の權力を凌ぐのみならず政府の政略も到底及び得さる所にありて大々的活動を試みつゝある支那商人か本來の支那人氣質に似す敏活なる活動を到る處に演しつゝあるは決して偶然ではないと思ふ

然り而して此固有の金融機關なるものは實に會館公所制度の半影にして會館公所制度は支那金融界に於て殊に著しき發達を遂けたるものと思はれる彼の錢業公所典業公所等か支那經濟界に於て如何に強大なる勢力を有して居るかは世人のよく知る所である併しながら營口の如き支那の經濟的中心から遥かに遠ざかる富の程度の甚だ低き滿洲なる農業地帶に位し且つ商業區域も至りて狹き所にあつては到底南清地方の如き嚴格なる意味に於る會館公所の經營せる金融機關なとは見るとが難いが併し多少種々の關係はあるけれとも猶は大体に於る此傾向を有して居るとは免れない事である彼の同業者等か日々一堂に相會して毎日の銀塊相場を一定し兌換の割合を限定する等の事業を見ても會館公所制度の事業と決して變る所はない、のみならず當地の金融機關中最も大なるものは主として山西人である所から見ても確かに明かなる證據だらうと思ふ向ほ注意迄に云ふが個々の金融機關が夫々組合組織となつて居ると云ふのではなくて個々金融機關の集合團体か此會館公所なる組合的構成を爲して居る傾向かあると云ふ意味である

満洲百人物

(一〇) 六鵜アサ

出し抜けに六鵜アサといふ、知らざる者定めて多からん、而も旭ホテルの女將おアサといふ、お近づきも或は少からざるべし知らすアサ竟に何者ぞや。

彼は旭ホテルの女將といへども、實はお嬢樣なり、必ずしも非賣品とも限らず。彼は醜婦といふに非されども、亦決して十人並の仲間入を爲し得べくもあらず、彼は無能を以て目するを得ずと雖も、亦謂ゆる手腕家に非ず。而も營口女流中に在りては、兎に角一頭地を抜き、旭ホテルといへば、必ずおアサあるを知らる、彼れ亦一個の怪物なる哉。

彼れが馬關春帆樓に在り仲居たる、彼は寧ろ第二流以下を以て目せられし者、其名未だ大に顯れず、後ち事に遇ひ、始めて兒玉總督に知られ、龍眷殊に深し、彼が營口に來り、春帆樓を開業する、其力に頼る最も多く、且つ其樓名の夙に世上に喧傳せられしよりして、人の耳目を惹く殊に著し、若しおアサに取るべきありとせば、即ち唯だ是のみ。

然れども彼れも亦女流の傑たり、凡庸中自ら一種機敏の才を有し、腹氣ありて思ひ切に富む。其平野町春帆樓の殘骸を一千圓にて水電に賣付けたるが如き、些事と雖も、亦其手腕の機微を察すべし。唯だ其思ひ切りに富むは、偶ゝ以て男を代ふる驛馬の如くなるの悪晒落と爲るも、今日の成功は、則ち全く此に在り、彼は寧ろ無能を以て能とする者歟。

一人一話 (七)

文學博士男爵末松謙澄君 ―文學と演劇―

古へ希臘時代の戯曲は、我國に於ける詩歌を意味するを以て、今日に及んでも文學上の關聯尤も深し。概して東洋に於ては演劇の進歩は大に遅徐の感あり、支那の如き元時代以後のものに非ざれば見るべきもの少く、然も、尠少なる位なり。而して脚本を書くもの多く、純粹文學者と號する事能はず、劣等の地位を與へられたるが如し。日本に於ても古くより神樂、催馬樂の如きもの起り、其後田樂、猿樂など相次いで起りしも是等は比較的上流社會の觀樂物なりき。浄瑠璃の勃興するに及んで、劇の臺帳は、浄瑠璃本に壓倒され、巣林子の作の如きは、孰れかと云へば西洋に於ける脚本と相接近し、文學と關聯するの傾向ありき然れども浄瑠璃の中にも名言は誠に乏しく「鶴の脚長しと雖も之をたゝば悲しまん」「嘉肴ありと雖も喰はざれば其味を知らず」など云へる、其當時は俗耳に入り易き爲めに、斯る章句を並べたるかも知らざれども、今日より云へば見るに足らざるもの多し。然るに西洋の有名なる脚本の文句は、之に反し冒頭より結末に至るまで名言を以て埋められたるもの多し、之れ我脚本の彼れに劣る所なり。

是等の點より今日に於ける我國の脚本を見るに、昔日の觀を一新して進境の歩調は確かに現はれて來れり、是れは大に喜ぶべき事にして、唯茲に一つ予の注意したき事は、兎角いまだ臺帳の考へ抜けず、如何にも昔日より慣用されたる臺帳臭味にあるが如く思はるゝが、之れは將來演劇と文學との關係上大なる缺點にあらざるなきかと信ずる也。

▲日報文壇▼

遙思家郷　しげを

胡沙吹ける風 惱みてさまよふと家なる妹のいかで知るらむ
一言の契り頼みて我妹子があはれ今年もあだに待つらむ

回文

天の川長白山に月落ちて　稻波
ちら／＼と秋たつ宵の燈かな　無一
水色は朝顔のものと覺えけり　孤峯
流し元虫なき馴染むとぞし哉　十羅
月の海静けき金波銀波かな　如風
荻咲くや墓標小さきは昔めく　北星
塔五層晩鴉啼き去る紅葉かな　寂光
秋の水刀洗ふて誰かさりし　風生
朝かほの前に爪とる女かな　野梅

偉人の愛讀書 (下)

カーライルは重に獨佛の文學と歷史に關する大圖書室を有しき。
テニスンは古英國物譚を熱心に研究し、之れに關する大圖書室を有しき。
英のゼームス一世は、古文學の愛讀者にして、殊に拉丁文學者の著述を好めり。
ジョン、バンヤンは聖書の外何物をも讀まず、耶蘇徒は寧ろ其他を讀まざる方可ならんと云へり。
繪工バンダイクはデカメロンを好み、會話の文句を其中より引抄すること多かりき。
カーデナル、リセリユーは拉丁の戀愛詩人タイプラスの詩を好めりき。
佛國のルイ十四世はオビッドの戀愛詩を以て、世界第一の巧妙なる著作となしき。
ゲーテは少時に讀める俗説學に其の大名を歸すること多きを語りき。
ジュリアス、シーザーはホーマーの愛讀者也、其の軍事科學に、凡て其の内より出でたりと稱せらる。
トルストイは社會學書の一大圖書室を有し、殊に新社會相につきての著作を愛讀す。
アデソン癖は金貨其他貨幣の歷史研究にありき。

快男兒

第八十七回　渡邊默禪

此の前夜お琴は繼母菊代より、帶刀が病死したる事を言ひ聞かされ、張り詰めたる氣の一時に萎えはて、身も世もあらぬ懷に泣朽折れしを、菊代は造化精妙と突入つて猶も巧に説き立てつゝ、清水に從へよと勸め込みしが、嘆きに取亂したる中とて其の言葉は耳へ入らず、碌々返辭も爲さゞりしより、持倦みて口汚なく罵りちらし、醉にふらめく千鳥足にて奥の離亭に戻りたり、跡にお琴は生體なく泣倒れ、腹膓も千斷るゝばかりの悲しみを繰回して、寒き一夜を火の氣もあらぬ闇の中に明したり、さて翌る日となるや、聊かのお茶に握飯を添へて重箱に盛りたるを、召使ひの下婢が持ち來りて、投る樣に與へて出行きたる有樣、昨日の待遇振とは手の裏返すが如くなるに、疎ましくも腹立しくて箸だに着けざりし、軈て晝も過ぎたる頃先づ菊代が姿を見せて昨夕よりは一際烈しき脅迫、滿足の返辭をなさぬを怒りて、踏むやら蹴るやら慘ましき苛責を加へて立去りたる間もなく、這回は棟庵が入替り、猫撫聲に下から出て種々に賺し立てたるも、相變らず首を振るのみなるに勃然として睨みつけ　棟『饑死か凍死か、命の綱の切れるまで此の土藏の中に張番をなそこそ可けれ」など毒々しき捨臺詞、棟『ガツプ』と唉を吐きかけて、荒々しく扉を鎖し去りたる後は再び近寄り來らず程なく日は暮れて淋しき雨の音さわ立ち、子刻を數へらるゝ鐘の音を遠くに聞く頃となりては、宛ら地の底へ我身を葬り去らるゝ如く心細さ、冷たき壁へ寄添ひて悄然と座りながら、熟々と今の境界を想ひ廻はせば、はかなき花の夢一期、命を懸けて契りし人が、つれなき嵐に摧けちりては、空しき面影を幻に忍ばんも甲斐なし、早や凡ての望も煙と消え、得堪へぬ苦惱のみぞ殘りたる我れ、いかで惜からぬ氣を未練の糸につなぎて、恐ろしき蛇の餌食となる事やあるべき、懷かしの父上も戀しき君も、共に幽冥に在すものを、疾く行きて遇ひまゐらせざりしこそ返々も愚かなれ、さらば今宵を過さず只一思ひにと、憐れにも覺悟を定めしお琴、藏の片隅に積重ねし器具の上へ上りて、晝の中に瞥と認めたるを幸ひ、闇の中を手探りに手頃の脇差を取り出し、袋を解き鞘を外して翳し見れば、暗きに流るゝ光は切味さこそと覺えらるゝに、片肌ぬぎて襦袢一枚、袂にくる／＼と切尖を包みて、今や吾が喉元へ突立てんとする折しもあれ、後に扉を開く音して、さつと映し込む灯の光、さては又もや母上かと打驚きて急ぎ白刄を隱して回顧れば、菊代にもあらず棟庵にもあらぬ怪しの漢子、見慣れぬ灯火を提げ、我が姿を照し見る氣配なりしが忽ち喫驚したる樣子にて、ブツト火を吹き滅し、急ぎ我が側近くに進み寄つて「今コレ女中衆、見れば自殺でも爲さうな樣子だが、此の深更にこんな土藏の中へ只た一人……一體こりやア如何したツてえ譯だ」と忍び聲にて問ひ掛けました。

●我紙は滿洲商業の唯一機關を以て任じ記事精確趣味豐富在滿邦民及び滿洲の事情を知らんと欲する者は一日も我紙を閑却すべからず

倫敦電報

印度秋獲豫想（九日特發）

在シムラ、ロイテル通信員の報する所に據れは印度國本年度の秋獲豫想至つて惡しく慘狀を極むるもの甚だ多く爲めに大規模の救濟法を講するの必要ありと云ふ

移民問題商議（同上）

加奈太國政府は當局大臣を日本に派遣し日本移民制限の件に就て日本政府と商議せしむる筈なり

露國商民困難（仝上）

イスパーハン在留の露國商人等は全地方が全然惡徒の手に歸し商業は中止し地方官憲は無能力にて之れを如何ともすること能はず各領事は施すに術なく加ふるに僧侶等は寺院に於て外國品排斥を說教し商民の困難名狀すべからざるものあり切に救助を求むる旨をノーボエ、ブレミヤ新聞に打電せり

東京電報

樺太劃境完成

十日午前九時東京特電　日露兩國樺太劃境委員は七日全線を通じて作業全く完成せり

タフト氏の公言

十日午前十一時東京特電　米國陸軍卿タフト氏は上海にて公言して曰く米國の對淸貿易は英國に次げり淸國若し我競爭者に優先權を與ふるとあらば米國は其損害に對して相當の處置を取るべく又支那の外品排斥に就ては抗議するの權ありといへり

奉天電報

徐總督の去就

九日午後五時奉天支社特電　徐總督の去就に付きて種々の傳說あるが當地官場の消息に據れば同總督は豫定の期日前後には歸任する筈なりといふ

大連電報

換算率改正

十日午后三時三十分大連支社特電　本日より滿鐵收入金銀換算率を銀百圓を金百二圓と改む

日銀檢査役等の來連

日本銀行檢査役署理岩佐琛藏（前日銀西部支店長）滿韓拓業會社重役阿部林左衛門の兩氏來連、大和ホテルに投宿せり

雜報

林公使の楊子江視察

上京中なりし林駐淸公使は四日午后二時大阪より下關着、仝夜會下山丸にて釜山へ向へるが同地にて玉利南淸艦隊司令官に落合ひ警備艦浪速にて八日上海へ着、砲艦隅田又は伏見に移乘し揚子江を遡り鎭江、南京、武昌、漢口を經て洞庭湖を過り長沙、重慶に抵り親しく水陸交通の狀況及び商工業の模樣を視察し其間に地方の大官紳董等と交際し內外の施設せる事業を探り以て大に對淸政策に資せん筈なりと尙公使が視察を終了せるまでには約三十日を要する見込にて歸途再び上海に入り軍艦浪速にて太沽に上陸北京に赴る豫定なるも急用起らば蘆漢鐵道にて漢口より一路直ちに上京をべしといふ

長春の降雪結氷

長春地方は去五日朝より西北の暴風あり[illegible]

減少せるが一々踏査する能はざるも內外炭商の唱道する所を綜合すれば平常の約半數ならんと云ふ而して減少の原因は（一）[illegible]需用者に於て買進むの傾向あるを以て小取引の出來直段に付き二三十錢方高値に出來し目先き尚強含みの市況なり云々

間島派兵中止の訓電

前きに萩原奉天總領事が淸國に間島に軍隊を派遣せんとするを以て日淸國際間の親睦を妨害するものとなし唐巡撫に對し友誼的の勸告を爲したりしが支那官憲に於ても多少反省せし所ありしか如く支那政府は數日前唐巡撫に向つて間嶋へ軍隊を差遣するを見合すへき旨訓電ありしと云ふ（次項參照）

唐巡撫と間島問題

唐巡撫は吉林朱巡撫へ對し今後間島へ多數の護衛兵を出さざる樣通牒せりと而して右通牒を發するに至りたるは過日或筋より受けたる注意に基きたるは言ふ迄もなきことなるべし

滿洲に於ける富源及び滿鐵の前途

……中橋商船社長の觀たる……

▲南滿鐵道は其關係廣きに亘り一朝にして斷案を下し能はざる事情あり然れとも概括して其前途は好望のものとなさゞるべからず元來南滿鐵道は撫順炭坑と密接の關係を有するものにして撫順の運命は又直に南滿の運命たるべきものなり之を內地の鐵道に見るに恰も日本鐵道と三池炭坑とを加へたるものに異ならず日本鐵道は岩倉公爵か廿七年前に經畫し三池炭坑は二十年前三井か一千万圓を以て拂下げられたるものなり兩にして要するに廿七年前の計畫を今日の時代に於て經營せんとするものなるが故に當時に比して大に發達せる國民と實力を以てせば經營必ずしも困難といふ能はず殊に滿洲の富は前途大に發達すべき運命を有するものなるを以て南滿の經營をして更に容易ならしむべし況んや資本總額中一億圓は無利息無窮の貸付を受けたるに異ならざる事情あるをや

▲滿洲が將來に臺灣の如く日本より財政上の獨立をなし得べきや否やは政治上の組織を異にするが故に直に斷言する能はず滿洲を旅行せるものは植物の繁茂期に於ても山叢々たるを見るに止まるが故に貧寒なる大陸とをすものなきにあらず然れども予が旅行中に於て視察したる所によれば滿洲は經濟上有望なる前途を有するものと信ず殊に吉林方面の如きは地味肥沃にして農作の良好なる曾て見ざる所なり南方に於ても其廣大なる大原野は無限の農產物を產すべく牧畜の如きは最も適する所なり今之に農事改良牧畜の獎勵を以て臨めば更に其富を增加する事を得べし

▲土民の富の進步は我が滿洲經營に對して絕大の利益を提供するものにて又一面に於ても其購買力を增加し本邦市場より新なる商貨を輸入する事となるべし此の如くにして本邦品を盛んに需用するに至らば之が供給をなすものは大阪市場を除きて他に之を求むる能はず予は大坂の商人か滿洲の前途多大の興味を有し今日より十分に研究し他日に備ふ所あらんとを切望すと云々

博覽會の外國出品

大博覽會の外國よりの出品指定品種は電氣機械工業教育の四種類に決したる由なるが何故に外國出品を四種に限れるかといふにこれを以て現代物質文明の總てを網羅をるを得べく即ち電氣機及應用機關の一切は電氣館に收容し他に瓦斯蒸氣用の發動機並に機械工業用機器一切は機械館に收容し工業館には金工木工土工及び鑛產物染織編網類等必要器具裝飾品一切の精製品を收容し圖書及び教科材料より文房具體育機械若くは醫療機械等は教育館に收容し得るを以て吾れの倣はんとするものは一切網羅し盡し且つ此の以外に於ても自ら特別館を設くるものは出來る丈歡迎する筈なれば其の實質に於ては萬國博覽會と勸業の主旨より言へば尤も必要なる農業林業水產等を何故に指定勸誘品より除斥したるかといふに之は歐米よりも寧ろ吾が國を主位に置くべきものにして多くを彼れに傚ふ能はざると共に之れに關する瀛關器機械類はまた機械教育館に收容すべきを以て特に指定するの必要なきに依るといふ

正金頭取の來滿に就て

滿洲の通貨か混亂の狀態にありて正金一覽拂手形を以て通貨の統一を企てたることも何等の好成績を擧けさるが爲め滿洲に於ける本邦民の經濟的活動少じも伸張せざること今や我國に於ける重要なる研究問題となれるより正金銀行に於ても棄て置けずとなし既報の如く頭取たる高橋是淸氏自ら來滿して親しく實況を視察し關東都督府、滿鐵とも熟議の上之が救濟方法を講ずることゝなれるなりといふ而して高橋頭取着連の上は當地を首め長春、鐵嶺、奉天、遼陽、金州、旅順其他の主なる市場を巡視して詳細なる研究を遂ぐるやに聞けり

正金頭取の視察日取に就て

在京社友の報する所に據れは高橋正金銀行總裁は十二三日頃下關着、春帆樓に入りそれより滿韓視察の途に上るべしとのことなるが滿韓何れを先きにするやは未定なりと

營口商務報の近狀

當地商務總會か營口商民の民風開發の爲め一新聞社を設立すへしとは既に報道せし所なるが近頃聞く所によれば同商務總會は章程一切を規定して總督を經て北京農工商部に呈出し其認可を求めたるに其章程中多少誤謬の點あるより農商工部より訂正方を問ひ合せ來りし由にて未た認可を見るに至らさるも同新聞にして愈々發行に至らば營商日報なる名稱を附ずる筈なりと

に當り勅語を奉讀したりと

松花江の露國波止場

吉林省城松花江岸[illegible]

ヴヰー設置の通告

當地稅關港務長は各國汽船會社に對しヴヰーの設置に關し左の如き通告を爲したり

本月廿日前後深水に於ける杭（フイシユステークス）を取り去り通常のスパアヴヰーを置く

航通路の東側に於けるヴヰーは赤圓球の籠を以て揚けたる赤色のものなり西側に於けるヴヰーは黑圓球の籠を以て揚けたる黑色のものなり

是等のヴヰーは春季に於て其位置に杭を置替ふるものとす

口酒味香味

本年七月南滿社債か發行された頃と昨今とは倫敦市場か著るしき相違を示し、ブラジル政府の公債の如きは償還期限と利率は南滿社債と仝樣だが價格は九十五半の見當て漸やく折合ど、五千万圓を三千万圓に減して發行したそうだ、之て見ると添田興銀總裁の不成功に終りしも無理ならぬことだ▲前民政長官石塚英藏氏の任用した民政官吏中には今も尚南滿を敵視してるそうだが、浦太郎、關屋貞三郎の兩親分が罷られ、島村岡村の兩參事官、鶴岡、福永兩警視も諭示免官となつた以上は都督府と南滿の一致は强ち不可能でもなからう▲聞けば都督府の杉村秘書官窪谷、蠟山兩事務官も近々罷免となるそうだ、不平ある者は男らしく辭任すべし、グツ〳〵して月給泥棒をやつて遊んで暮らしてるのは國家の賊である▲久保田總務課長は是公長官よりも腕が切れるそうだ、腕は兎も角、氏が這な憎まれ役をやつてもビリツともしないのは流石にエライと云はねばならぬ

ブッシュ商會主談片

遼河航行不如意の爲め營口奉天間に於て四十四隻の輸豆船は其職業を失へり▲奉天間豆百斤運賃關外線は（軍票）三弗九十五仙なるに滿鐵線の五圓六十五錢（軍票）は割高にあらずや▲支那人の言に滿鐵線は支那貨物を惡しく取扱ふ故破損物多しと▲遼河稅として每航六弗十仙を徵收せらるゝ故に水運は却て滊車より高價となることあり道臺は屢々關稅を徐總督に稟請せしも釐金局小吏共の反對に因りて未だに成功せざるとは殘念なり▲石炭の當港に輸入せらるゝもの每年平均四万噸位なるが今年は一万乃至一万五千噸に過ぎず源因は金融の逼塞と撫順炭の輸入とに在り開平炭價格は一噸十三弗位にして日本炭寧ろ安價なるに似たりと云々

持彥馬雨氏は關東都督府より警務を囑託せられ民政部警務課勤務を命せられたり

當地虎疫の熄滅

一時蔓延し當地商業に少なからざる打擊を與へたる虎列剌病は昨今全く其跡を絕ち支那人間にも一人の患者もなき旨支那官憲より通知ありし由なれば當地の虎列剌は熄滅に歸したるものゝ如し穀の入津するもの是より多からんとする折柄なれば惡疫の絕滅は當地商業界の爲め誠に慶すべき事と云ふべし尙ほ本年同病流行以來の淸人間の罹病者及死亡者全癒者數は左の如し

日本人の患者數合計十名　內死亡者五名、全癒者五名
支那人の患者數一〇四名　內死亡者七十八名、全癒者二十六名

淸國官衙と日本商人

聞く處に依れは淸國官衙にては日本商人より直接商品の購入を爲さす淸人の手を經て買入るゝ由近來日本商人の內淸國官憲に納入の商品中往々不正の者ありて見本と商品の同一ならさる爲めなりと淸國人間に於て向後の大發展を爲さんとする日本商人は大に注意せさるべからず云々と奉天內外通信は報せり

奉天實業會例會

奉天商業會議所にては一昨日例會を開き會議所議員の候補者を決定せる筈

安奉線の貨客增加

久しく不通なりし安奉線は去一日全線開通したるが安東縣の虎疫も終熄せることなれば乘客も多く荷動も著るしく夥しとのことなり

鴨綠江の架橋設計

前きに某外國人によりて設計せられたる鴨綠江架橋工事は其後邦人の手に移り山田技師監督下によりて設計圖調製中なるが最初は七十万圓の豫算なりしに今回又滿韓鐵道の連絡に伴ひ重車に堪へしむる必要より豫算增加をなし約三百万圓を要すべく概算したりと云ふ尙ほ架橋工事の着手は明春四月なるべしと

小野田セメントの增資

同會社の臨時總會は關東州に分工場を設立の件及ひ六十万圓增資し資本金總額を百二十万圓とすると滿場一致を以て可決したり同社の資本金六十万圓（一株六十圓にして一万株）の處九月廿五日現在株主に對し持株一株に付新株一株宛を割當ての筈にて申込期限は十月十一日第一回拂込期限は十二月二日なりと

奉天郵便局の取扱數

奉天城外郵便電信支局の郵便取扱數九月分の統計は左の如くにして先々月八月に比し非常の增加を示せるは城內郵便局の移轉等より自然城內に居住するもの停車場往復の度數每に城外郵便局の位置便宜なると一は九月に入りて仝局管內の戶口增加し又諸工事多きが爲め多數の人々往復せし等重なる原因なるへしと

	九月分	八月に比し增減	
引受通常郵便	四五、六五九	仝上	一、六五四增
引受書留仝	一、〇七三	仝上	四五五增
配達普通仝	八五、三三八	仝上	四、八四增
仝書留仝	七二〇	仝上	一〇七增
小包引受仝	二七〇	仝上	三八增
小包配達仝	七八五	仝上	四二增

旗民の滿洲移住策

淸廷は過日上諭を以て滿漢の區別なく平等國民として取扱ふ旨を宣せられ從來俸祿に衣食して懶惰なる生活を續け居りし滿洲八旗の徒は凡て農に歸せしめ自ら食を得せしむる策を取り且つ馬廠莊田等の領地を給して生計の道を立てしむる筈なりしが各省駐在の旗人に付きては其地方の馬廠莊田を以て兎に角不十分ながら間に合はす事を得べしと雖も北京に駐する旗人等に至りては順天府附屬州縣の旗民の領域は概ね滿人王族圈內の私產にして京城八旗の公產と稱すべきもの殆ど無く到底彼等をして衣食を得せしむる道なきが爲め近日政府は連日會議し其處分を討究しつゝある由なるが茲に江寧總督端方は策を献し同京城八旗を以て凡て東三省邊域の地に移住せしめ以て邊地開拓の事業を實行せしめなば一擧兩全の策ならんと奏上したるにより目下政府は此問題につき研究中なれば多分實行を見るに至るべしといふ

奉天の軍隊送別會

奉天居留民中の重なる諸氏は去八日午后五時より今回歸還を命せられたる軍隊長及ひ副官を奉天倶樂部へ招き惜別の宴を張りたるか來會者五十餘名席上種々の餘興の催あり頗る盛會なりしと

兵舍の補修工事

滿洲駐屯軍の各兵舍は何れも不完全にして冬期の居住に適せざるを以て今夏以來補修工事中なりしが本月中には完成の見込なりといふ

柳樹駐屯兵の計畫

關東都督府陸軍部にては目下大房身に並立せる陸軍兵舍を柳樹屯に移さんとする計畫あり柳樹屯には從來步兵第五十四聯隊の二箇大隊駐屯し居たりしか右兵舍移轉濟の上は內地より交代する第十師團の內完全なる一箇聯隊を駐屯せしむる筈にて經理部にては既に實地の視察を了へたり

瑞典副領事の任命

當地瑞典領事館副領事は當地露淸銀行に在勤する瑞典人カロス氏を以て代理せしむる事となれりと

東淸鐵道部長の來奉

露國東淸鐵道會社商務部長マーチ氏は奉天省內各開放地の商況及南滿鐵道の營業情況視察の爲め本月七日ヘルピンより來奉せられ目下滯在中なりと

總領事館修繕工事

奉天總領事館は昨年六月開館當時舊家屋に假修繕を施せし儘にて廳舍に充てしものなれば破損の箇所もあり今度愈よ大修繕を加ふることゝなり去九日より工事に着手來月上旬全部竣工の豫定なりといふ

奉天警務署の移轉

新廳舍新築中の奉天警務署は此程新築工事落成しだれは去八日移轉し舊廳舍は修繕工事を加へ署長官舍に充つる筈なりと

宮澤睦佐君に告く

敬愛犀陽陶兄足下其后足下の滿洲に渡來せられたることは吉植哲堂の告ぐる處によりて之を知れり僕亦今來りて左[illegible]

小國民の作物（三）

營口小學校尋常三學年　土屋シゲヲ

學校の一日

わたくしのならつています學校は、えーこーしよがつこーてあります、はじまりのじかんは、このほどごぜんの九時ときまりました、そしてわたくしどもは、さきー先生からどくほんやさんじゆつ、しゆしん、つづりかた、しゆじなどをおしえてもらいます、またゆふぎのじかんなどがありまして、たいそーやぶらんこーゆふどーぼくなどにのつたりして、いろいろなおもしろごとをして、げんきよく先生といつしよにあそびます、そしてうちにかへるのはたいていごごのにじになります、またさいほーのあるときにはさんじにひけてうちにかへります、おとうさんやおかあさんにただいまとおじぎします

筆魔墨魔

遼河の濁水は滔々として雲漠々、壯大の景と云つたら日本では迚も見られない、凡そ大陸生活は人をして著るしく壯大の感化を受けしむる、荒涼たる滿洲の平原、天外雲漠々たる江河、いづれか自然の絕大莊嚴に感せざる、吾徒幸にして三叉竹越氏をこゝに迎ふ、氏の感慨が特に切であつたのは尤千萬だ、異日第二の蓬萊記か氏の筆によつて著はさるゝ時、如何なる營口觀が現はるゝてあらう、見まほしきものにこそ▲行者は顧み來者は望む、洋妾か營口第一の美人とは情けないではないかとは、此間催ほした舟遊會のキャビン室での誰？かの話▲天春クンの「梅の春」は感スンしないが都々逸は何してなか〳〵お稽古の積んだものだ、御師匠サンは新橋の阿新だそうだ、阿新といへば新吉の姉藝妓て新橋て鳴らしたものだ、天春クンが東株に勤めてた時から其道樂が派手で大ざつぱいであつたことが想はれる、君の道樂が事實よりもヨリ多くに噂に上るのは東株時代の遺口が未だ幾らか殘つてるからである▲阿しんの妹藝妓は義太夫か上手てあつた湖月や萬安の宴會の流れが濱町の常盤とか瓢とか濱田とか乃至は銀座裏の鈴本なんどへ繰り込むと直くに新吉を呼べといふので、一時はヒゲ連中の大持てあつた、此藝妓今は何うして居るか一時は新派俳人にして新進作家である佐藤紅綠クンとあらぬ浮名を立てられてたが僕は正可と思ふ、但し箇中の消息は或は或ぱ天春大盡の天眼通に映じてるかも知れないテ

公私往來

▲若竹千代吉（農事試驗場調査員）奉天より來營旭ホテルへ投宿
▲近藤勝太郎（大日本麥酒會社員）大連より昨日來營旭ホテルへ投宿
▲永岡堯（農事試驗場長）昨日大連へ向け出發
▲竹越與三郎（代議士）一昨夜奉天へ向け出發
▲大垣巽（土木請負業）昨日大連より來營旭ホテルへ投宿
▲達村容吉（水害技師長）大連より來營旭ホテルへ投宿
▲山田千秋（本社營業部主任）大連より昨朝歸社

天氣豫報

自十日午後六時至十一日午後六時
營口地方　南の風曇り

特別廣告

郵便局移轉

當局及小包分室共來ル十一日正午十二時ヲ以テ永世街舊郵便局官舍跡（舊巡警總局向フ角）現在當局裏門ヨリ約二丁半西ニ移轉ス

明治四十年十月九日

牛莊郵便局

講談　假名太閤記

（第八十席）　松林伯知口演

常陸介は少しく小聲になつて秀次公に向ひ　常「第一君は御人望と云ふものが厶いませぬ、今諸大名へ情けを掛けられ御心中を打明けて御味方を御賴みになれば、何者とて背き申すべき、夫れには先づ御行ひを改められ仁政を布き給ふが肝要なり、此儀思召し立ち給へば拙者御味方になるべき大名段々取調べ申すべし、之れ常陸介の考へに厶いまする、如何なるものか、伜作其方も能う考へて見い、上樣にも確と御考へ遊ばして宜しう厶います、且つ淀殿に於かせられては一樣の婦人ではムいませぬ、上樣の御心に依つては大事眼前に起るべく候」と申上げた、其時秀次公は妙な顔をして夫れを聞いて居られたが　秀「何ぢや、其樣な事せんければならぬと言ふのか、此度和子出生の後は太閤には此秀次を疎んじて居るとは判つて居る、併し此始末如何樣な事に成行くとも大名を手馴け左や右くそるなどとは思ひも寄らぬ、殊に大阪の城は日本無雙の名城ぢや、要害は至つて嚴重、今予に與して大阪へ向ふ大名ありとするも、夫れは天下諸侯の中三分の一はあるまい、なまじなる事仕出來して反逆の惡名を末世に貽すも面白くないわ、淀とても大した事の出來るものではない、且つ生れた若を關白にして予を五十萬石にすると言ふが、五十萬石でも宜い、ならばもう少し願つて百萬石にして貰ひ妾でも置いて樂んで居れば、却つて其方が宜いかも知れぬ、關白などは面倒ぢや、又淀が夫れ程に予を疎んずる譯もあるまいと思ふ、のう伜作」伜「恐ながら左に候はず、淀樣は容易ならざる御婦人に候、又大阪には畏ろしき野心家も數多ムります」常「之は伜作の申す通りに厶います、上樣は餘り御氣にも掛けられねど、中々容易な婦人ではムいませぬ、殊に此度の若君も殿下の御子ではあるまいなど、下々の噂さばかりではムいませぬ、政所樣なども內々夫れを御心配遊ばして居る位、左樣な噂さのある若君の爲に上樣が身を御引き遊ばす法はムいませぬ」と言ふと伜作又も膝を進めて　伜「夫れは御家老の仰せの如くで厶います、彼の加茂の織出殿の御別莊の月見の宴のありましたる節斯く云ふ伜作も招かれて夫れへ參りましたる折柄淀樣には此伜作へ御懸想遊ばし、多くの人を遠ざけて猥らしき事さへ仰せられました位、拙者も餘りの事に呆れ果て、勿體なけれど御意見申し力づくにて淀樣を御懲し申せし事も厶いまする、夫れ等の事より考へますれば只今の若樣とて誰が胤なるか判りますまいか存じまする」秀次夫れを聞くと　秀「何、淀が其方に懸想をしたとな、ウーム、併し伜作、其方は淀に心は許しはすまいな」伜「何で左樣な事の厶いませう」秀「併し淀が其方を思ふも尤もぢや、此秀次さへ其方には離れまじと思ふて居る位ぢや、之は如何にも嫉ましく思ふ」と仰せられる其樣子を傍らで見て居た木村常陸介は思はず涙を流して　常「上樣、貴公はなぜ左樣な事ばかり仰せられますするか、實に情ない御心に厶いまする、斯く迄に申上げても未だ御判りにはなりませんか、上樣の御心次第で私は一つ大阪城へ忍び入り恐ながら殿下の御首を頂戴致さうかとまで考へて居ります」と言ふと秀次は「オウ左樣か、夫れは其方の了簡に致せ、万事其方に任せる、コレ〜伜作、爰では何も出來ぬ、是より奧へ參つて歌留多の仕直しを致さう、サア來れよ」と其儘伜作を從へて秀次公は奧へ這入れました

●滿鐵行政部員決定

滿鐵鐵道大石橋地方部出張所主任には島崎辨次郎氏、鐵嶺には小森氏、長春には田邊氏何れも就職せり（記者曰く奉天遼陽は既電の通り愈々決定せるものなるべし）（十日午后五時大連支社特電）

といふ

●上海歸客談　上海より昨日來營せる某炭商の語る所に依れば目下上海の貯炭は大に騰するを見込み昨今需用者側に於て買進みし事（三）門司唐津の炭況活氣を帶びし報道傳はりし事は其重なるものならん斯の如く

育勅語謄本下賜　請願中の處六日公立小學校へ下賜相成りたれは即日附室全校長より受領の證を其筋に提出し全日擧行の紀念式

ち魁星樓附近にありて土地を撰定したりと云ふ

●醫員囑託　大連病院勤務醫員柳瀨才藏倉

●好角舊話（二）

扶桑生（寄）

▲其後大垣名古屋と東海道を打ちながら上京したが遂に遠州濱松の興行で大達ノ勝利に歸したさうだ、其當時東京方幕下に三名の新進强の者があつた、若の川、濱の音、一の矢である▲一ノ矢は後に大關になつたが、若の川で其當時は最望を屬した力士で、梅ヶ谷は彼を評して後世恐るべしとは高砂部屋の若の川だ、角力神とは彼の事だと云ふて居たところが惜ひとには彼は三道樂を兼備した厄介者で、飲む打つ買ふ其結果はいつも借錢を殘して脱走する、流石の師匠高砂も度々の脱走に愛憎をつかし、入幕した斗りで遂に破門されてしまつた▲高砂も彼と今泉（後に源氏山）とには殆んと困つたのである、其後十九年か二十年かに大達に連れられて大阪へ遣つて來た事がある、其時は恐の川と稱して居た、五日目であつたと思ふ、大阪方東の大關虎林と顔が合つたか恐のが勝て居るのに大阪方から物言を附けたので、東京方も仲々承知せず、到々其翌日取直しと云ふことになつた、大角力に取直しとは如何にも珍てあるが、そうしなければ東京方が納らなかつたのである、そこで上方好角連の心臟を沸騰せしめ、却て人氣彌增し翌日の大入と云ふものは實に立錐ノ地も無い位で、此一番の勝負に客足を吸寄せた、さて其勝負はどうであつたかと云ふに、互に投げの打合にて非常の大角力に成り、遂に虎林を土俵の砂に埋めて恐の川の勝に成つたが、彼も此角力に負けては東京方の名折に成るので必死の覺悟て奮鬪したのである▲其後大達とも不和に成り又々脱走して居たが三十五年に再び二段目の中程に角力と名を更へて大阪へ來た事がある、其時は最早老ひては駑馬に劣るの譬で、昔しの面影は無くなつて前身の彼を知る生等をして轉た嗟嘆を禁じ得なかつたのであるが、それに付けても力士の最も戒愼すべきは品行である

●大相撲八日目の勝負　綠川凰は双方烈しく突合綠の進ばな凰歸素早く左四ツとなる綠の下手投げ凰上手投打返して勝▲西昇手柄山は西の小敵に手柄小敵との顔合せの事故手柄破る事出來ずやと西あなとりし手柄清く仕切立上り一二合突合左四ツ西無二無三に寄切らんとするはなを手柄引落して勝は番狂はせ▲鳴戸岩小綠は本日中の好取組なり化粧立數回立上る左四ツとなるや綠素早く下手投げ鳴戸巧に殘り鳴戸の寄身綠下手投に防ぐ鳴戸の寄み綠得たりと下手投打しもさすか鳴戸のスクヒ投げ綠落手早く鳴戸の勝なれども右司木村淺之助軍配を綠へ揚る物言附取直し双方一二合突合ひ綠の首割鳴戸かづし左四ツ双方モミ合ふ內水入となる後綠の下手投鳴戸掛足に防ぐ鳴戸の寄身綠下手投打を鳴戸あぶせ込て勝▲朝日潟勝時は立合手四ツトケテ時左差寄出さんとするを朝日寄返て勝▲有知山綾川は綾の鼻有心得たりとハタキ込綾泳ぎ殘り立直り素早く右四ツとなる有知泉川にキメ出さんとす綾掛足に防ぎ巧に殘り鼻タスキ拔けしも有知のてる綾素早く小手投數回打し時は有知あやぶかりしも巧に殘りスクヒ投にて有知の勝▲琴ノ浦は右四ツの寄を引落て琴の勝▲中入後、大碇左倉川は双方突合左倉の出はなハタキ込て碇の勝▲高根押出さんとするを土州土俵際に對へ廻り込み土州の上手投打を高根下手投打返して勝▲大林今錦は突合今左差林例の泉川キメ出さんとす今對へ一氣に押出さんとするをヘタキ込て林の勝打出し午後十時

●大相撲九日目の勝負　大連大相撲九日目の勝負は左の如し

勝	負	勝	負
小碇	（すくひ）増井川	釼石	（うちなげ）藤渡
小猫	（つりだし）綠川	清見岳	（なげ）荒木山
土州山	（もたれ）加古川	綾川	（したて）濱ケ崎
今錦	（つきだし）凰	大碇	（うはて）手柄山
小綠	（はたき）高根松	大林	（すくひ）い
西昇	（したて）勝時	朝日潟	（たし）鳴戸岩
琴浦	（たし）有知山		

百花園

●旅順　巴城館は料理屋としての構造は同地第一等であらうが惜むくは別品が少ない力彌は兎に角力彌の巴城館か巴城館の力彌かと云はるゝ程の米櫃藝者である▲あやめは名だけ聞く頗る別品のやうなれど顔中か目かと思はるゝほど大きな眼だか併し瞳に何とも云へぬ愛嬌かある▲若駒は出雲の神へ願かけて妹脊の契り首尾克との間一髪ツラヤ其人は內地へ歸る事となりサリトハツライと溢して居たか跡にて此人は大の帶と判り左樣な人ならば惜しうもないと云つて居るとは滑稽至極▲駒菊は顔は二の町なれどなかなか勉强家にて客の請はよろし▲靜子は年に似合ぬ辣腕にて將來有望と賞めて置く

●奉天獵友會發會　奉天三井出張所西宮房次、城內邊見勇彥の二氏發起となりて昨日奉天倶樂部にて獵友會を開きたり

●鐵嶺市場建設　鐵嶺に於ける市場は曩に同地の有志河內圭司氏に於て私設經營の計畫あり此議を領事館に請願して一度は認可せられたるも敷地の支那官有地たるの故を以て其許可を取消され一時中止の狀態にありしが今次同官憲は自から官地八百坪を提供して設置することゝなり地を櫻町の裏通りに卜して全戶廿八の市場を建設し在來の魚菜に更らに諸雜貨を加へて販賣せしむるの方針を取れり同地は在留民住居の中心點にして市場としては極めて好位置なる由にて工事竣成の曉には日淸人に於て折半し其一方を邦人に貸與するものなりと云ふ尙ほ之か管理經營等に就ては目下天野領事と支那官憲との間に商議する處あり近く日淸人合同の公司を組織して之が管理に任せしむる筈なりと

●遼陽の質屋　遼陽には元來廿八ケ所の公許質商ありしも漸次廢業し數年來纔に四軒となり細民の急需に應じつゝありしが之とても漸次悲境に傾き殆ど廢業同樣の姿となり受質のみにて入質は一切之を爲さゞるより近來金融逼迫に連れ細民の困難一方ならず往ふ中流以上の人士にても時として現金入用に不自由を感じつゝあるを邦人遊戲業者高利貸等は奇貨居くべしとて烏賀を開業するもの城內外を合して十餘ケ所に及び典物は衣類時計髮飾等を限り價の二割を貸出し一圓につき月利三十錢流期は二ケ月縛りと云ふ途方もなき暴利を貪りし當面急に逼まられ止むを得ず置質に來る者の踵を接し一日一軒の貸出額平均二三百圓と上りしかば忽ち資本に缺乏を告るより番號札を發行して一日の貸出額五十圓を限りて營業を繼續し來れるが流石中流士は自ら愧ぢて來らざるも日々滿員大繁昌にて一時金儲けは是沙汰なりしを利權回收熱中せる支那人の覺醒を來し西二道街廣興當跡に奉天官銀號分行の事業として公濟當なるものを開業し制規に從ひ二分利廿四ケ月流れにて金高の制限なく貸出に應ぜしより此方へ轉質そるもの水の低に就くが如く開業以來廿日間程に大約一万五千圓の貸出を爲し今日にても猶日々五六百圓の入質あり將來も無限の需用に應ずる旨聲言せるより邦人側には忽ち大打擊を蒙むり近來は日々の入質十圓內外客は苦力が主となりしかは典物も多寡の知れたるものなる故質流れとなりても大した利益は見られざるより懷中勘定に影響を及ぼす事僅少ならず一時夢みし寶の山もあはれ水泡と消ゆるなるべしと

呉服　太物　洋反物　チヨール類　メリヤス　綿花　其他一式

冬物荷揃

大連市浪速町　塩久呉服店（電話二二三番）

●馬賊瀛車を襲ふ　去る八日の夜半零時三十分頃蘇家屯奉天間下り列車分岐點附近進行中突然馬賊現はれ淸人携帶の麻袋入りの銀貨を奪はんとしたれば護乘の兵士三名直に發銃取押へんとせしも馬賊は身輕く車窓より逃け去りたりと

●邦賊支那人に捕へらる　原籍福岡縣田川郡方城村字辨城千四百五十五番地永末重藏（二八）東京麻布區山本町五十五番地青木豊三郎（二二）大阪西區三軒町字下町十番地出鳥吉三郎（二九）の三名は何れも住所不定の惡徒なるが去る四日大石橋の南方約四十淸里離れたる劉家溝の支那民家に押入り金錢を強奪せんとせしに却てアベコベに四五人の支那人に取圍かれ短刀を振つて切り拔けんとしたるも遂に捕へられ大石橋警務署の手より當地領事館へ引渡されたりと

●料理番の喧嘩　當地第三樓方料理人加藤宗吉（二七）はツマラヌことより同樓同職の叶仙吉（二九）と喧嘩を始め遂に仙吉の頭部に三ケ所の傷を負はせ其筋の御厄介となりしも漸く示談にて事濟みとなりたりと

●營口座の素人淨瑠璃　秋高くして咽喉亦朗かなる節に際し當地素人半素人の天狗連白拍子連相集りて今晩及び明晩の兩夜六時より各自お得意の淨瑠璃をウナル由、無論木戶は口へにてお負けにお茶菓子まで出るとのこと故定めて大入客止なるべし

諸國物語

▲滋賀縣神崎郡八日市町大字八日市に寄留する蒲生郡鏡山村の平民澤村藤太郎（二二）は梅毒症に罹り種々治療を施すも全治の見込なきを悲み居る折柄或人の話に梅毒には死人の首を黑燒にし服用する時は直に全治すべしと云ふを聽き喜び或墓を堀りて三歲計りなる女子の死体を取出し其首を斬つて自宅に持ち歸り之を服用せんとしたるも何分氣味惡く鞭に川中に拋棄し何食はぬ顔して居たるが遂に捕縛せられたり▲山梨縣東山梨郡日川村なる志村銀行にては大水の折家屋破潰せられ三十万圓在中の金庫流失せしにより懸賞方法を以て搜索中なりし所深田中に埋沒しゐるを發見したり▲群馬縣碓氷郡松井田町加藤要次郎方酌婦谷けい（二〇）川合菊代（一八）兩人は常に姉妹に劣らぬ睦じさなりしが雇主か密淫賣を强ゆるに堪へ兼ね兩人互に帶と帶とを襷にて結びつけ四つの袂に小石を入れて女同志の情死を遂げたり▲露探の許ありし故の前田淸次の妻薫は露人に伴はれて露國に赴きたり

●滿洲のちり　●安東　長崎縣佐世保市白風町平民三吉私生兒牧本サイ（一九）は前借二百圓にて韓國宣川の貸座敷奧村方に身を沈めしに去る六月情夫にそゝのかされて逃出し安東縣三番通り元の一丸亭に潛伏せしが遂に發覺して目下ゴタ〜中▲大連　西通り金波樓方大塚ムツ（二二）松田イネ（二六）の兩名は露西亞町北公園前の滿鐵宿舍へ進撃して翌朝歸らんとするに折惡しく同宿舍內に疑似コレラ患者發生せしか右兩名も其儘留められて隔離所へ送られたり▲遼陽　愛知縣寶飯郡小坂井村字篠束平民當時當地警務支署詰巡査淸水三津三（二九）は腸窒扶斯に罹り官設醫院に入院治療中なりしが遂に死亡せり▲奉天　十間房居住大工職石丸末太郎も腸窒扶斯に罹り去る六日死亡せりと

投書かご

（いしはんさくた）

▲人生の最大の樂は酒色にあり酒も呑まず女を買はずと云ふ人は至聖にあらざれば至愚なり（通々子）▲大石橋の旭屋は今回代か變つて主人は元憲兵とかをしたにも拘はらず頗る分つた話せる人だ其上愛嬌たつぷりのお岸ねいさんが座敷の取持ちと來ては勢ひ沈沒せざるを得ざる場合となるよ（三日生）▲孟家屯瓢屋の春子褚サーベルさんが內地へ歸つて青菜に鹽とは情ない三力公司のあの人は當にならぬか都合次第取持つて遣るワイ（旗振）▲公主嶺花村館の淸子には松本瀛車君と信次郎旦那との二人の情夫があつて時々稍當の色消しを演ずる（キド生）▲近來會社の宿舍で慶醜業婦が白晝巫山戲て居る監督者の嚴しき取締を願ます（何万子）▲一昨夜市街花月の前の原で若い男女がヒソ〜話して居たが聽て女が大聲擧げて泣き出しそんなに薄情のことをするなら妾は死んで仕舞ふと云つて仲々聽かず男は其脊中を撫で頻りにダマして居た多分近所の料理屋の女だらう（立聞生）▲孟家屯九州館の吉子は近來益腕が上つて來た感心々々（大石橋子）▲醜業婦は皆誘拐せられて來るが多い、宜しく義俠者の一臂を煩したし（涙子）▲鐵嶺竹女君の俳句と當地うた子さんの川柳とを續々拜見したいね（文學狂）

めうがや製　東京足袋　盛進商行（電話二〇番）

特別廣告

牛莊郵便局爲替貯金　金銀受拂相塲　來十月六日ヨリ十月十二日迄

軍票又ハ圓銀壹圓付ニ　本邦通貨金壹圓〇三錢六厘

電話問合ヲ謝絶ス

鐵婚を拜聽せん事を切望仕候拜具　大連市吉野町二丁目十七番戶　川村洋行內　齋藤吉之助

最高六九、一二四　最低五四、五　高一一、七

大連　南の風晴り　奉天　南の風晴れ

廣告 廣告まへ御申の節は滿洲日報にて見し旨御申添被下度

營口出帆廣告

日本郵船會社滊船出帆

●酒田丸 十五日未明出帆大連門司神戸横濱行
御乗客は前晩六時迄に御乗込相成度候

●竹島丸 十八日午前六時出帆大沽芝罘門司神戸行
御乗客は前晩六時迄に御乗込相成度候

●營口丸 廿四日午前太沽芝罘長崎門司神戸行
御乗客は全日午前迄に御乗込相成度候

（乗船切符發賣ハ出帆前三時迄 未明出港ノ分ハ前日午後五時迄）

營口代理店 旗昌洋行（電話二六番）

滊船營口出帆

●摩耶山丸（十一日入港豫定）
●頼朝丸（十六日入港豫定）
●音羽丸（十九日入港豫定）
●御代丸 十月十二日入港豫定
●福陽丸 十三日四日市行

松茂洋行 電話（五二、五七）

滊船出帆廣告（營口天津間定期）

●長柄丸
●萬成源丸 十二日入港
●第二生田丸 十一日門司行

代理店 東和公司（電話四一〇番）

大連出帆廣告

日本郵船會社滊船出帆

●薩摩丸 十六日正午長崎行
●酒田丸 廿日正午門司神戸四日市横濱行
大棧橋より發船可致候

日本郵船株式會社大連出張所（電話貳壹〇番）

大阪商船會社滊船出帆

●大義丸 十九日正午門司神戸大阪行
●開城丸 十五日門司神戸大阪行
●鐵嶺丸 二十二日正午門司神戸大阪行
大棧橋より發船可致候

大阪商船株式會社大連出張所（電話貳貳零番）

松茂洋行滊船部出帆

●頼朝丸 十五日午後四時營口行
●音羽丸 十八日午後四時營口行
▲乗船切符は吉野町大山通り角〇ト運送店にて發賣可致候

大連市監部通り二丁目（電話二五九番）河邊商店大連出張所松茂洋行

横濱正金銀行牛莊支店

資本金貳千四百萬圓
積立金壹千五百零五萬圓

本店 支店 出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪 倫敦
里昂 紐育 桑港 布哇 孟買 香港
上海 漢口 天津 北京 大連 旅順
奉天 遼陽 芝罘 鐵嶺 安東縣 長春
（寛城子）

電話十番（支配人室）（百八番事務室）

正隆銀行

總經理人 深水十八
營口元神廟街二八六
電話（支配人室三四一 事務室二一〇）

隆記洋行

西營口老爺閣東小紅樓西南側
西分店 電話四二

澤龜發賣元
宅合名會社
大連支店

高等洋食料品 酒 鎌倉ハム 新荷着

森病院

營口永世街（電話一五五）
外科 産婦人科 歯科（入院隨時）
院長 森矯

機器 鐵廠
川喜鐵工所
營口接定門街
電話二五二番

○眞正大島紬

元祖薩摩大島直仕入 現品並ニ見本三百餘種
一見本御一覧ノ上縞柄壽ハ速ニ新製取寄可仕候
一特約販賣御希望者モ御座候ハヾ御相談可仕候

織元出張販賣所
米穀酒類食料品卸商
大連市信濃町大通
仝 江口公司

冬品荷揃

三週年 賣出し

今回祝意の爲め……
十月五日より十五日迄冬着賣出安賣は元より又々突飛の大安賣尤斯地丈は壹反に付特に金七拾五錢期日中販賣仕餘興として福引仕候間何卒御來車の程奉待上候

景品目次
天、朱珍廣帯 壹本
地、濱縮緬小紋 壹反
人、御召縮緬 壹反

外に絹布及綿布數百反
福引券は金參圓毎に壹葉を呈し直に改料理品引換可申候但し福引券は無駄券壹本も無之候

營口 木村呉服店（電八八番）

旅館 大和館

永世街第三十四號（電話壹壹三番）
店主 前田九一郎

專業旅館 東京樓

營口乗車乗船最好の位置（電話一八七）
團隊四人樣以上は規定宿料外格安勉强割引可仕候高等御下宿は面議廉價御賄可申上候

和洋諸紙卸商

大連市伊勢町四二号地
仝 渡邊大連支店

高等旅館 松華ホテル

鐵嶺西門外火神廟

支那松 大角及尺角 貳拾壹尺
仝 二寸板一寸板 貳拾壹尺
仝 製材角及板類
銀票
二道溝渡一才 仝 八錢五厘
鉄嶺渡一才 仝 拾壹錢
奉天 一才 仝 拾壹錢五厘
右の外御望に應じ製材御調辨可仕候也

公主嶺 北辰公司支店
寛城子北門外 仝出張所

各種製綿發賣廣告

大阪製綿株式會社の清國代理店として當行より發賣する各種の製綿は其品質の善良なる價格の低廉なるは既に世の定評あり陸續御用命之程祈上候

●多數の御注文には割引可致候

登録商標 (仁) (い)

御賣定價表

(仁)印大打	拾貫目ニ付	銀參拾參圓
(い)印大判	仝	銀廿九圓六拾錢
(仁)印大判	仝	銀貳拾九圓
一等六永	仝	銀卅圓七拾錢
(仁)印小袖綿	拾反ニ付	銀貳圓五錢
(仁)印夜具綿	拾貫目ニ付	銀廿九圓六拾錢
(い)印	仝	銀二拾八圓
日玉印	仝	銀廿四圓十錢
白雪印	仝	銀貳拾貳圓
福印	仝	銀拾五圓五拾錢
壽印	仝	銀拾參圓二拾錢

大連市信濃町九十九號地
大阪製綿株式會社代理店
岡本洋行
「電話三一九番」

滿洲特約販賣店
大連市監部通「電話二七六番」 政記公司
大連市吉野町三丁目 須崎洋行
大連市信濃町 大塚組
遼陽西門外 藤田組出張所

冬物荷揃

洋物店
牛莊新市街
盛進商行
振替貯金口座一万一百十九番
電話二十番

一般患者ノ診療ニ應ス（往診入院隨意）
院長醫學士 松井禹四郎
新市街賓來街
營口同仁醫院
電話番號 一七八番事務室 一七一番病室

御料理 觀看樓

旅順三笠町

第二十四次 大連彩票賣出
頭彩壹萬圓
開彩十月二十六日
裕和盛（電話八壹）

冬物荷揃

帽子 毛布團 毛布 モヘル シヤツ 沓下 手袋 窓拭 机拭

營口 三友洋行 電一七四

土木建築請負

煉瓦、石灰、石材及び各種建築材料

各地出張所所在地
●大連 ●長春 ●公主嶺
●鐵嶺 ●湯崗 ●奉天
●振臺子 ●千金寨 ●遼陽

營口 廓家店
飯塚工程局（電話一六五）

遼東病院

▲診察の上入院隨意
▲入院料 自金壹圓五拾錢 至金五圓
旅順八島町貳番地（郵便局隣）
院長 今村春逸

和洋完備
遼東ホテル
大連市信濃町
電話壹參一

日本旅館

專業旅館並に高等下宿
營口新市街千代田街
店主 三野傳藏（電話一三〇）

陶器類おろし小うり

大連市浪速町貳丁目角
定松商會

新荷廣告

○大塊石炭及無煙炭
○亞鉛板及洋釘
○木炭
○セメント
○日本白米
○消石灰

右各種は頼朝丸音羽丸にて今回到着廉價販賣致候殊に無煙炭は火力强大普通石炭の參倍余の耐久力を有し室内を汚染せず煙筒掃除の必要なし至極經濟的に候市內は御注文次第多少に不拘配達可致候

材木商 營口
喜久洋行
（電話三一四）

專業御旅館

開業以來の御高評に背かざる樣何事も益誠實に御客樣の便利を計り極めて丁重に御扱ひ致御宿泊料の如きは出來得る限り勉强可仕候間何卒特別の御贔負偏に奉希上候敬白

營口新市街南本街
清林館
（電話三〇一番）

物價

營口爲替相場 十月十日

正金銀行一覽拂(百圓ニ付)
- 內地 一〇一圓二分ノ一
- 天津 一〇三圓四分ノ三
- 上海 一七一兩
- 芝罘 一〇四圓四分ノ一
- 銀塊相場 三十片

同通貨相場

正隆銀行 受 / 拂
- 銀貨(百圓)軍票 [illegible]
- 金貨(百圓)軍票 [illegible]
- 「ルーブル」ト軍票 九九、一〇 / 一〇〇、[illegible]
- 墨銀ト軍票 一〇三、[illegible] / 一〇四、[illegible]

▲營口物價▼

●大豆豆粕
- ▲豆粕 一兩七
- ▲新豆 九兩三
- ▲全 九兩六

(新市街加藤洋行調)
- 英國製中折帽 ([illegible])
- 黑山高帽子 ([illegible])
- 鳥打帽子 ([illegible])
- ラクダ毛防寒帽 ([illegible])
- ラッコ毛皮帽 ([illegible])
- スコッチ靴下 打 ([illegible])
- 全 長靴下 全 ([illegible])
- カシメン手袋 全 ([illegible])
- スコッチ手袋 全 ([illegible])
- 皮手袋 全 ([illegible])
- 獨乙製毛メリヤス上下組 ([illegible])
- 全 ジヤケツ 全 ([illegible])
- 舶來毛メリヤス全 ([illegible])

- 白毛布 二枚續 ([illegible])
- 色全 全 ([illegible])
- 舶來綿全摸樣入 ([illegible])
- ネル地膝掛 ([illegible])
- ラクダ膝掛 ([illegible])
- モヘル ([illegible])
- 羽根蒲團 ([illegible])
- 全繻子地 ([illegible])
- クツシヨン ([illegible])

●石炭類(喜久洋行) 軍票標準
- 赤阪口上塊炭 一噸 [illegible]
- 福井粉炭 全 [illegible]
- 無煙炭 百斤 [illegible]
- 本渓炭 [illegible]

●亞鉛引板類
- 亞鉛板廿八番大尺 一枚 [illegible]
- 全 七尺 全 [illegible]
- 全 八尺 全 [illegible]
- 平板全 全 [illegible]

●洋釘類
- 七分五厘一インチ 百斤 [illegible]
- 一インチ二分五厘 全 [illegible]
- 一インチ半 全 [illegible]
- 一インチ七分五厘 全 [illegible]
- 二インチ 全 [illegible]
- 二インチ半 全 [illegible]
- 三インチ以上 全 [illegible]

●穀類
- 肥後一等白米 壹石 [illegible]
- 市内配達は苦力賃を要す

(新市街大原洋行調)
- 澤龜(四斗入) 一樽 [illegible]
- 福水印味淋 一函 [illegible]
- (四打入)
- 盛印葡萄酒 全 [illegible]
- (四打入)
- 龜甲萬醬油 一樽 [illegible]
- 龜甲醬醬油 全 [illegible]
- (一號)
- 全上(二號)全 [illegible]
- 全(大)全 [illegible]

- 龜甲醬印 全 [illegible]
- 蓮印醬油斗樽 全 [illegible]
- 醬油酢(大)全 一樽 [illegible]
- 東京澤庵(大)全 [illegible]
- ならづけ 全 [illegible]
- うめぼし 全 [illegible]
- 紅生薑 全 [illegible]
- 小田原蒲鉾 一函 [illegible]
- 瓶詰(四〇入) [illegible]
- 白味噌(二〇入) 一樽 [illegible]
- 都味噌(全) 一樽 [illegible]
- 金山寺味噌(五入) 全 [illegible]
- 椎茸(上等)十貫 [illegible]
- 海苔(淺草)千枚 [illegible]
- 鰹節(土佐)十貫 [illegible]
- 全 薩摩(全) [illegible]
- 干瓢(五貫) [illegible]
- 片栗粉(十貫) [illegible]
- 白玉粉(百本) [illegible]
- 饂飩(全) [illegible]
- 高野豆腐(千個) [illegible]
- 燒麩(全) [illegible]
- 山出昆布(十貫) [illegible]
- 利尻昆布上(全) [illegible]

●日本綿布相場(永順洋行調)
- 牡丹牌大尺布 一疋 [illegible]
- 桃牌全 全 [illegible]
- 寶星 宇佛青布全 [illegible]
- 全 藍布全 [illegible]
- 鹽字佛青布全 [illegible]
- 全 深藍布全 [illegible]
- 花旗佛(麒麟印) 廿碼 [illegible]
- 青布 東洋緞子(孔雀牌)頭等 一碼 [illegible]
- 全 二等 一碼 [illegible]
- 東洋花手巾 一ダース [illegible]
- 全毛手巾 一ダース [illegible]

●倉敷料(東和洋行)
- 一ケ月定 錢
- 米大豆及雜穀 一担 [illegible]
- 豆粕 一枚 [illegible]
- 麥粉 五十磅一袋 [illegible]
- 綿花(支那大) 百八十斤內外 一俵 [illegible]
- (全中) 百廿七斤內外 全 [illegible]
- (全小) 六十斤內外 全 [illegible]
- 全 亞米利加叉ハ孟買壓迫梱 一立方呎 [illegible]

- 綿糸(孟買支那日本四〇〇磅) 一俵 [illegible]
- 綿布 一立方呎 [illegible]
- 絹織毛織麻織衣類全 [illegible]
- 清酒 四斗樽 一樽 [illegible]
- 全 二斗樽全 [illegible]
- 洋酒類箱入 一立方呎 [illegible]
- 全 四打入 一箱 [illegible]
- 醬油酢類 二斗樽 一樽 [illegible]
- 全 一斗樽全 [illegible]
- 砂糖 一五〇磅 一袋 [illegible]
- 昆布 大束 一束 [illegible]
- 刻昆布 一箱 [illegible]
- 海參乾鮑鱶鰭明骨 一担 [illegible]
- 魚類漬物 四斗樽 一樽 [illegible]
- 野菜 二斗樽全 [illegible]
- 全 [illegible]
- △アンペラ廿五枚 一卷 [illegible]
- 麻袋 五〇〇枚 一梱 [illegible]
- マッチ 安全 一箱 [illegible]
- マッチ 硫黃 全 [illegible]
- △石油 全 [illegible]
- 煙草 紙卷大 全 [illegible]
- 全 小 全 [illegible]
- 本 [illegible] 一俵 [illegible]
- △石炭 一噸 [illegible]
- △獸骨獸角獸蹄 一担 [illegible]
- 罐詰壜詰類 一立方呎 [illegible]
- 板硝子硝子器品全 [illegible]
- 窓硝子百平方呎入一箱 [illegible]
- 陶器磁器類 一立方呎 [illegible]
- 紙類 全 [illegible]
- セメント 一樽 [illegible]
- 銅及亞鉛 一担 [illegible]
- 鉛板 一卷叉ハ一桶 [illegible]
- 亞鉛板 一箱 [illegible]
- △トタン板波形 一梱 [illegible]
- △全 全 一束 [illegible]
- △鐵管鐵板故鐵類 一担 [illegible]
- 煙草類 百十二磅一箱 [illegible]
- 釘 小桶 一桶 [illegible]
- 全 大桶全 [illegible]
- 銃 十本入一箱 [illegible]

(一)右の種類の內△印を附したる品は野積とす(二)輸入手數料は未濟品の保管料の倍額を申受く但し本表後の保管料は本表に據る
(三)十日間は保管料を要せず
(四)十五日間未滿の保管料は半ケ月分申受く
(五)此表に規定なき物品の保管料は其價格の保管料は毎月從價千分の五トス
(六)受寄物の內容並に狀態に對し當公司は其責に任ぜず
(七)尺重量價格に基き之を定む
(七)當公司は火災風洪水事變其他暴力不可抗力又は鼠喰入氣候の變遷及物品の性質若くは荷造の不良に因り受寄物に生じたる損害に對し賠償の責に任ぜず

▼遼陽物價▲

- 白米 四斗俵 [illegible]
- 味噌 一貫目 [illegible]
- 砂糖 一斤 [illegible]
- 醬油 一斗 [illegible]
- 酒 一升 [illegible]
- 石油 一罐 [illegible]
- 魚類罐詰 一ダース [illegible]
- 野菜全 全 [illegible]
- 牛肉全 全 [illegible]
- バタ 一ポンド [illegible]
- ソース 半ダース [illegible]

●菓子類
- ビスケット 一磅 [illegible]
- ドロップス壜入全 [illegible]
- スタ一 罐入全 [illegible]
- ビール 一壜 [illegible]
- 壜詰酒 全 [illegible]
- 燐寸 (壜詰酒橫佛口) 全 [illegible]
- エジプト煙草 百本 [illegible]
- メリケン帽子 一個 [illegible]
- 鳥打 全 [illegible]
- カラー 全 [illegible]
- ワイシャツ 全 [illegible]
- フランネルシャツ全 [illegible]
- 木綿メリヤスシャツ上下 [illegible]
- 毛 全 [illegible]
- 靴下 一打 [illegible]
- 布團綿 一貫目 [illegible]
- 下駄表付 一足 [illegible]
- 全 桐直パキ 全 [illegible]
- 全 山桐 全 [illegible]

- 半紙 壹〆 [illegible]
- 硯箱 壹個 [illegible]
- 筆 壹對 [illegible]
- 墨 壹挺 [illegible]
- ゾボンツリ 一 [illegible]
- 算盤 一 [illegible]
- 狀袋 百枚 [illegible]
- 卷紙 一本 [illegible]
- チリ紙 一〆 [illegible]
- ネキタイ 一 [illegible]
- ネキタイピン 一 [illegible]
- 石鹸 舶來一 [illegible]
- 全 內國製一 [illegible]
- 茶器之揃 一組 [illegible]
- 全九谷燒 全 [illegible]
- 急須 一 [illegible]
- 土瓶 一 [illegible]
- 小皿 百 [illegible]
- 中皿 全 [illegible]
- 三ッ鉢 壹組 [illegible]
- 水差 一 [illegible]
- 飯茶碗 一 [illegible]
- 盃 百 [illegible]
- 醬油 [illegible] 百 [illegible]
- 茶正喜撰 一斤 [illegible]
- 全 川柳 全 [illegible]
- 手帳 一冊 [illegible]
- 通帳 全 [illegible]
- 簿記帳 全 [illegible]
- インキ黑 一磅 [illegible]
- 全 赤 半 [illegible]
- 石鹸函 一 [illegible]

- 箸箱 一 [illegible]
- ハンカチーフ木綿 一打 [illegible]
- 全 麻 全 [illegible]
- 全 絹 全 [illegible]
- 人形 一 [illegible]
- 足袋黑 一 [illegible]
- 全 白 一 [illegible]
- カタン糸 一打 [illegible]
- 香水 一 [illegible]
- 壁紙 內地製 百枚 [illegible]
- 全 獨乙製 一卷 [illegible]
- 行李 竹 一 [illegible]
- 全 柳 一 [illegible]

●精白米(一石ニ付)(西街瀧染洋行)
- 特等(◆本印) [illegible]
- 壹等(◆翠印) [illegible]
- 貳等(◆青印) [illegible]

●罐詰類
- 鯉(一斤)四ダース [illegible]
- 鰻(半斤)八ダース [illegible]
- 鯖(一斤)四ダース [illegible]
- 鯖(半斤)八ダース [illegible]

●化粧品
- 御園四季花 壹ダース 大 [illegible] 小 [illegible]
- 御園の雪 全 [illegible]
- 御園とき水 全 [illegible]
- 全 高等 瓶入 全 [illegible]
- チエリーオイル全 大 [illegible] 中 [illegible]
- チエリーポマード全 小 [illegible]

(向井洋行)金票
- 清酒金露 四斗四升 [illegible]
- 札幌ビール 四ダース函 [illegible]
- 醬油上印 壹斗 [illegible]
- 全 權印 全 [illegible]
- 全 櫻印 全 [illegible]
- 全 福印 全 [illegible]
- 東京澤庵漬 十二貫 [illegible]
- 鳳印ビスケット 磅 [illegible]

▼大連物價▲

●醤油（信濃町河又出張所）
極上印　九升詰　三、五〇〇
上　〃　三、二〇〇
櫻　〃　二、九〇〇
龍　〃　二、七〇〇
福　〃　二、五〇〇
壽　〃　二、三〇〇
菊　〃　二、一〇〇
濱口梅　〃　三、二〇〇
仝竹　〃　二、九〇〇
仝寶　〃　二、七〇〇
上　正二斗詰　六、三〇〇
櫻　〃　五、五〇〇
龍　〃　五、〇〇〇
福　〃　四、七〇〇
鍋　正三斗五升詰　七、〇〇〇
壽　〃　六、七〇〇
菊　〃　六、三〇〇

●味噌
白　廿貫入　八、二〇〇
赤　仝上　七、八〇〇

●世帯道具（信濃町菅井商會）
十四吋バケツ　壹打　三、六八〇
壹番盥　仝　三、一五〇
貳番盥　仝　二、七〇〇
參番盥　仝　二、四五〇
鉄今呂　大　十個　六、〇〇〇
仝　中　五、五〇〇
つや消會席膳　尺一　十人　四、八〇〇
仝　尺二　六、〇〇〇
溜内消仝　尺二　六、七〇〇
吸物椀　春慶甲　三八　一、四五〇
仝　仝　四寸　一、八〇〇
仝　曙　四寸　一、八〇〇
仝　溜　四寸仙才　一、八〇〇
吸物椀蒔繪入　自　二、五〇〇　至　八、〇〇〇
菓子椀蒔繪入　自　二、五〇〇　至　八、〇〇〇
能代會席膳　尺一（二枚入子十組）　三、〇〇〇
仝　廣盆　尺六（仝上）　九、〇〇〇
溜八寸丸盆（仝上）　二、七〇〇

●和洋食料品（吉野町二丁目河村洋行）（各十樽ニ付）
東京澤庵　十二〆目　二七、〇〇〇
奈良漬　八〆目　二五、〇〇〇
御具藤　十二〆目　一六、〇〇〇
味噌漬大根　同　九〇、〇〇〇
仙臺味噌　極上　二〆目　六〇、〇〇〇
並味噌　同　七、〇〇〇
白味噌　同　六、五〇〇
金山寺味噌　五〆目　三、五〇〇
卷梅干　二百目　一、三〇〇
赤梅漬　五〆目　六、五〇〇
紀州梅干　三〆目　二、五〇〇
万印醤油　九升詰　三、六〇〇
山サ印醤油　仝　三、五〇〇
山平印醤油　同　三、二〇〇
來山印醤油　同　三、〇〇〇
動和印醤油　同　二、〇五〇
麟印醤油　同　二、〇〇〇
華印醤油　同　三、〇〇〇
蜂印醤油　同　一、八〇〇
保萬齢漬（各入開一函ニ付）　三斗九升　一、九〇〇
葉唐辛子　一斤罐　六、五〇〇
牛肉　同　八、二〇〇
同　甲　八、二〇〇
さくら乙　同　一、〇〇〇
かつをぶし　同　八、五〇〇
大鳥賊　同　七、八〇〇
松茸ボイルト　七、七〇〇
しほやけ　七、二〇〇
福神漬　甲　七、〇〇〇
同　乙　九、〇〇〇
なまりぶし　九、〇〇〇
あらかぶ　六、五〇〇
鰻太煮　六、〇〇〇
日本煮角罐（六打二函）　六、八〇〇
あなご蒲鉾同八打二函　七、五〇〇
筍ボイルド三斤罐（三〇本五）　五、三五〇
紫菜小瓶入（百本）　二〇、〇〇〇
ぜ佃煮（各一樽ニ付）　三〆目　六、九〇〇

●洋鉄類（三重洋行支店）　十貫目
スイツル丸鐵　（四、二〇〇）（四、五〇〇）
角鐵　（四、二〇〇）（四、五〇〇）
平鐵　（四、二〇〇）（四、七〇〇）
丸、角、平、鋼鐵　（五、五〇〇）（六、〇〇〇）

●セメント類
淺野セメント　六、五〇〇
大阪仝　六、二〇〇
外國仝　五、九〇〇
火山灰　一、二〇〇
胡粉　一叺　二、二〇〇
箱入

●角又及苧莇
松前角又　十貫　六、二〇〇
苧莇　仝　四、〇〇〇

▼奉天物價▲（小賣相場）

白菊　仝　五、〇〇〇
中学　仝　三、〇〇〇
赤　仝　三、二〇〇
紙巻上　二、八〇〇
仝次　二、五〇〇
澤鶴　一樽　金票二七、五〇〇　支那票三、〇〇〇
蜂印葡萄酒　一箱　四、〇〇〇
龜甲萬醤油　一樽　四、〇〇〇
龜甲萬醤油　一壜　四、〇〇〇
仝上　二壜入　三、六〇〇
仝　仝　九、三〇〇
東京庵　仝　六、五〇〇
奈良漬　仝　六、五〇〇
うめぼし　仝　一、〇〇〇
紅生姜　仝　一、〇〇〇
花辣韮　三斗八升入　一、四〇〇
白味噌櫻井　十八貫入　金八、八〇〇
仝　十九貫入　八、〇〇〇
赤味噌　一七貫入　一三、五〇〇
金山寺味噌　仝　一三、〇〇〇
椎茸　十貫目　支那銀　七五、〇〇〇
仝上　コミ　仝　一〇〇、〇〇〇
淺草海苔　千枚　八〇、〇〇〇
鰹節（土佐）　十貫　八〇、〇〇〇
仝（薩摩）　仝　一二〇、〇〇〇
干瓢　十貫　二三、〇〇〇
片栗粉　仝　三、〇〇〇
白玉粉　仝　三、〇〇〇
馳麩　十貫　三、〇〇〇
高野豆腐　二百個入　一、六〇〇
燒麩　千個　一、五〇〇
山出しこんぶ　十貫　二〇、〇〇〇
出シ利尻こんぶ　十貫　九、〇〇〇
白髪こぶ　十貫　一〇、〇〇〇
鳴戸若芽　十貫　二五、〇〇〇
寒天　千個入　二、五〇〇
片子煙　一斤　一、四〇〇
刻子煙　仝　一、三〇〇
大麻　一兩　一、〇〇〇
青麻　一斤　一、〇〇〇
綿糖　仝　一、三〇〇
白沮　仝　一、九〇〇
石　仝　三、五〇〇
醤油エキス　一罐　二、〇〇〇
朝日ビール　一箱　一〇、五〇〇
豆油　一斤　一、〇四〇
豆餅　一塊　一、〇〇〇
粳米　一斗　一、三〇〇
小米　仝　一、一〇〇
高粱　仝　一、〇〇〇
小麥　仝　一、五三〇
大麥　仝　一、八〇〇
小豆　仝　一、九〇〇

●穀物（毎斗）　吊
黒豆　仝　一、一〇〇
黄豆　仝　一、二〇〇
平野水　仝　一、一〇〇
日本白米　一俵　七、四八〇
元豆　六、二〇〇
紅根　三、二〇〇
小豆　五、一〇〇
吉豆　六、二〇〇
合豆　六、一〇〇
芝麻　九、〇〇〇
谷子　一、二〇〇
小米　二、八〇〇
小麥　六、一〇〇
球米　八、二〇〇
粳米　四、〇〇〇
　　　二、一八〇

●銀市（十月六日）
銀數　十吊〇三成
現銀元　六吊百四十文
票銀　九吊八百二十文
現銀毎加色　一百二十文
羌帖　十一元二毛
英洋　十一元六毛
人洋　十八元五毛
龍洋　八三元
日本手票　十八元
毎十圓ニ付　十七元五毛
日本金票　六吊四百文
軍票　七元五毛

●木材（小西邊門外東亞洋行）　金票
杉丸太　一丈　二、〇〇〇
仝　二間　二、〇〇〇
仝　三間　三、〇〇〇
仝　四間　三、〇〇〇
仝角　一間　二、〇〇〇
仝　二間　二、〇〇〇
縦四分板　一坪　二、〇〇〇
仝八分　仝　二、〇〇〇
杉四分　仝　二、〇〇〇
仝六分　仝　二、〇〇〇
松大分　仝　二、〇〇〇
仝八分　仝　二、〇〇〇
仝一寸　仝　二、〇〇〇
杉二間貫　中　二、〇〇〇
仝　大　二、〇〇〇
仝　十枚　三、〇〇〇
松二間敷居　一才　三、〇〇〇
仝　仝　三、〇〇〇
仝貳間　仝　三、〇〇〇
杉四間足場丸太　一本　三、〇〇〇

▼鐵嶺物價▲

●穀類
白米　防長一等　一石　三、〇〇〇
仝　二等　仝　三、一〇〇
朝鮮石採　一等　仝　二、〇〇〇
仝　二等　仝　二、〇〇〇
仝　三等　仝　一、九〇〇
元豆　仝　一、七〇〇
黒豆　仝　一、六〇〇
小豆　仝　一、六〇〇
高粱　一担　三、一〇〇
包米　仝　二、一〇〇
紅小豆　仝　三、一〇〇
白小豆　仝　三、〇〇〇
黄大豆　仝　三、一〇〇
青大豆　仝　三、二〇〇
豆粕　一斤　一、三〇〇
小豆粕　百斤　二、一八〇

●味噌
白味噌　十八貫入十樽　一、七〇〇
赤仝　仝　七、〇〇〇
金山寺仝　五貫入　四、〇〇〇

●漬物
奈良漬　十三貫入　一、五〇〇
大根味噌漬　十八貫入　九、五〇〇
東京澤庵　十二貫入　一二、〇〇〇
梅干　二百入　二、〇〇〇
赤梅干　十二貫入　一二、〇〇〇
紅生姜　仝　四、五〇〇
花辣韮壜詰　一四打入　六、五〇〇
白辣韮　仝　七、五〇〇
保萬齢漬　一斤入四打　九、〇〇〇
仝　牛斤入十四打　三、〇〇〇
時雨煮葉唐辛子　一斤入四打　九、五〇〇

●醤油
國運　九升入十罎　毛、五〇〇
萬歳　仝　三、五〇〇
平和　仝　三、〇〇〇
来福　仝　二、九〇〇
仝　仝　二、五〇〇
山サ印　一斗入　三、〇〇〇
菊甲印　仝　四、二〇〇
上一印　仝　四、〇〇〇
東玉印　仝　三、〇〇〇
甲子印　仝　三、五〇〇

●酢
總印　三斗五升入　六、七〇〇
仝　一斗入　二、三〇〇
白鶴印　四斗入　六、二〇〇

●清酒
百合正宗　四斗三升　一七、〇〇〇
澤鶴　四斗五升　一七、〇〇〇
菊正宗　三斗九升　一九、〇〇〇
白鹿　仝　一七、四〇〇

●麥酒及洋酒
旭ビール　四打一箱　一二、〇〇〇
仝スタウト　仝　一四、〇〇〇
札幌ビール　仝　一三、〇〇〇
恵比須ビール　仝　一三、〇〇〇
キリンビール　仝　一三、〇〇〇
スナビール　仝　一三、〇〇〇
蜂印香竄葡萄酒　一打入　三、〇〇〇
白帆葡萄酒　仝　一九、五〇〇
牛飼葡萄酒　仝　一八、五〇〇

●飲料水
孔雀印平野水　四打入　五、八〇〇
番引炭酸水　仝　五、八〇〇
レモンスイ　仝　六、五〇〇
サイダー　仝　六、五〇〇
三ツ矢印サイダー　仝　六、五〇〇
イダー　仝　六、五〇〇
ジンジヤー　仝　六、五〇〇

●鑵詰類
大和ボイルド　四打入　七、五〇〇
サヽエ　仝　八、五〇〇
松茸　仝　九、五〇〇
筍味附　仝　九、〇〇〇
福神漬　仝　七、〇〇〇
お多福豆　仝　六、五〇〇
アナゴ蒲焼　八打入　一二、五〇〇
鯛味噌　四打入　一〇、五〇〇
御苔佃煮　十打入　一〇、五〇〇
カレー粉　八打入　一二、〇〇〇
鷲印ミルク　四打　一二、〇〇〇

●乾物
淺草苔　十帖　一、〇四〇
椎茸　十貫目　二八、〇〇〇
干瓢　仝　一五、〇〇〇
こんぶ上　仝　一五、〇〇〇

●茶
正喜撰特別上　一斤入　九、五〇〇
仝　四半斤入　二、八〇〇
入川柳印　牛斤入　二、七〇〇

●洋麵
寶船印　一袋ニ付　二、五〇〇
童印　仝　二、五〇〇
東郷印　仝　二、四〇〇
菊水印　仝　二、四〇〇
嘉比壽印　仝　二、四〇〇
鉄印　仝　二、四〇〇

●勞働者賃銀（一般）
一日勞銀　日本人　一圓　支那人　一圓
　　二、五〇〇　八〇
撚徐職　二、五〇〇　八〇

▼長春物價▲

大豆　一石　三、〇〇〇　吊文　一三、〇〇〇
小麥　仝　一、〇〇〇　三、〇〇〇
豆粕　一斤　一、〇〇〇　一、〇〇〇
硬米　一石　一、〇〇〇　八、〇〇〇
鹽　百斤　一、〇〇〇　三、〇〇〇
高粱　石　一、〇〇〇　六、五〇〇
豆油　仝　三、〇〇〇　一三、〇〇〇
黒砂糖　仝　三、〇〇〇　三、〇〇〇
白砂糖　上　仝　三、〇〇〇　三、〇〇〇
米　菊正宗　二、〇〇〇　（軍票）
酒　白鹿　三、〇〇〇
味噌　澤甲　三、〇〇〇
醤油　來福　十貫入　一、〇〇〇
石油　三星印一箱　一、〇〇〇
蠟燭　万印　一、〇〇〇
石炭　一噸　三、五〇〇
燐寸　一箱　四、五〇〇
綿布　白一四　五、五〇〇
白麵（ハルピン製一袋百四十五斤入）　二、〇〇〇　吊文　三、〇〇〇
仝（米國製一袋四十斤入）　…　一、四〇〇　七、五〇〇
小豆　一石　三、〇〇〇
麻　一石　三、〇〇〇
粟　一百斤　六、五〇〇
綿　上　一百斤　二、〇〇〇
仝　仝　一百斤　二、〇〇〇
毛頭紙　上　刀　二、〇〇〇
葉烟草　百斤　八、〇〇〇
仝　九十枚　六、〇〇〇
數嶋　廿入　一、四八〇（洋）
大和　仝　一、八〇〇
朝日　仝　一、〇〇〇
ヒーコーツ　一箱　吾入　二、〇〇〇
ビール　一箱　二、〇〇〇（軍票）
軍票一圓　官帖　二吊九百三十文
金票一圓　仝　二吊八百文
軍票一圓　洋銀　一圓〇十二錢
金票一圓　仝　一圓〇七錢

石工　三、〇〇〇　一、八〇〇
左官　二、〇〇〇　一、八〇〇
大工　二、〇〇〇　一、九〇〇
木挽　二、〇〇〇　一、九〇〇
鍛冶職　二、〇〇〇　一、二〇〇
煉化職　四、〇〇〇　一、〇〇〇
指物職　二、五〇〇　二、〇〇〇
桶職　二、〇〇〇　一、〇〇〇
ペンキ職　二、五〇〇　一、〇〇〇
武夫　三、〇〇〇　一、七〇〇
土工　一、〇〇〇　一、〇〇〇
紙帖職　一、〇〇〇　一、〇〇〇